

玄海原子力発電所見学研修の感想

物質工学科 2年 江口 彩花

私が玄海原子力発電所を見学して考えたことが2つあります。

1つ目は、安全対策についてです。私は今回の見学に行くまで、原子力発電は危険なイメージがありました。それはおそらく2011年に起きた福島第一原子力発電所事故の印象が強いからだと思います。私は、当時小学校低学年だったため、中学校の発電所について調べる授業で初めて事故の内容を知りました。しかし、私はその時インターネットで調べていたため、原子力発電そのものが危険なものだという記事を信じました。きっとメディアによって、原子力発電そのものが危険で原子力発電所は減らすべきだと考えてしまっている人々も多いのではないかと思います。しかし、私は今回の玄海原子力発電所見学で努力と時間をかけた、たくさんの安全対策を見てきました。発電所を地盤の上に直接立てて地震に強い造りにしても、制御棒や水素爆発を阻止する機械などを備えていると聞いてただけで驚きましたが、玄海エネルギーパークのガイドの方にもっとたくさんの設備があることを知ってさらに驚きました。きっと今回の玄海原子力発電所見学研修に参加することがなければ、このような万が一の万が一のさらに万が一以上の安全対策を見ることはなかったと思います。これを私は今回参加できなかった学生に教えてあげたいと思います。

2つ目は、原子力発電によって生じる最終廃棄物についてです。玄海原子力発電所では発電の燃料として使い終わったウラン燃料からプルトニウムを取り出し、燃えにくいウランなどと混ぜて作った燃料を使用していると知りました。これを燃やすことをプルサーマルといい、資源の少ない日本にとって再利用出来るというのは素晴らしい発明だと思いました。しかし、それでも最終的には何パーセントかの高レベル放射性廃棄物が発生してしまうのも事実です。私は物質工学科という化学と生物を専門に勉強しているため、たくさんの放射性物質を埋設処分しなければならないというのはこれから考えていかなければならない課題だと感じました。

私は今回の研修で、これからのエネルギー問題を考える新たな知識を得ました。これからもこのような研修があれば積極的に参加したいと思います。